令和6年度在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実績報告

資料1

目指す姿	事業名	実施内容	評価と課題
①在宅療養・認知症支援の基盤が整備され、場面に応じた切れ目のないサービスの提供体制が構築される。 （日常の療養支援・入退院支援・急変時の対応・看取り）	在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会	**【第1回（5/23）】** ・令和5年度在宅医療・介護連携推進事業及び認知症総合支援事業の実績報告 ・令和5年度認知症初期集中支援チーム実績報告 ・令和6年度在宅医療・介護連携推進事業及び認知症総合支援事業実施計画 ・意見交換 「自宅での看取りやACPについて住民が知るために必要なこと」 **【第2回（10/3）】** ・在宅医療・介護連携推進事業及び認知症総合支援事業の上半期実績報告 ・認知症初期集中支援チーム上半期活動実績報告 ・在宅医療・介護連携フォーラムについて ・意見交換 「自宅での看取りやACP（人生会議）を知ってもらうための取組」 **【第3回（2/6）】** ・在宅医療フォーラムの実施報告 ・多職種連携研修会の報告 ・在宅医療後方支援制度の実施報告 ・認知症基本法の概要について ・意見交換 「認知症の人が自分らしく過ごすために地域においてできること」 ・次年度の在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実施方針について	医療と介護の連携について、それぞれの立場においての意見交換が行えたことで共通認識が図れた。 また、在宅医療フォーラムに向けて、自宅での看取りや人生会議について意見交換を行ったことで、実施にあたり大変参考となった。
	医療・介護連携ワーキング	**R6年度は認知症支援・入退院時連携について実施** **【認知症支援　第1回（6/26）】** ・認知症みまもり訓練に向けた検討 （実施場所、内容、規模、周知方法、役割分担、協力者について） **【認知症支援　第2回（7/10）】** ・認知症みまもり訓練に向けた検討 （日時、場所、声掛け訓練の内容、役割分担、振り返りについて） **【認知症支援　第3回（8/28）】** ・認知症みまもり訓練に向けた検討 （実施要領と声掛け訓練の実施場所について、認知症役の設定） **【認知症支援　第3回（9/19）】** ・認知症みまもり訓練に向けた検討 （訓練の予行演習と最終確認） **【入退院時連携　第1回（7/19）】** ・白井市入退院時における医療と介護連携ルールBOOKの見直しについて ・入退院時における医療と介護の連携について	認知症支援は、初めての試みとなるみまもり訓練の実施に向けて、様々な立場からの意見交換をすることができた。 入退院時連携ワーキングについて、医療と介護連携ルールBOOKは、活用状況と連携の課題を把握するため意見交換を実施した。
	「在宅医療後方支援制度」の運用 ※平成31年4月より開始、在宅医療を受ける患者が一時的な入院を必要とする状態になった際、事前に登録のある市内3病院のいずれかで受け入れる仕組み	【システム利用実績】（令和6年1月～12月末） 登録患者数：25名 後方支援体制利用患者数：9名（令和5年：13名）	本制度の利用により、市内で医療が完結できるため在宅医師側だけでなく、患者本人・家族側の負担軽減につながっている。 市外訪問診療機関に対しても引き続き、制度の周知に取り組んでいく。

①在宅療養・認知症支援の基盤が整備され、場面に応じた切れ目のないサービスの提供体制が構築される。（日常の療養支援・入退院支援・急変時の対応・看取り）	「認知症初期集中支援チーム」の活動	【対応実績】 令和6年度　7ケース　（令和5年度　13ケース） ※活動実績の詳細、評価および課題については、別紙資料に記載	対応ケース数増加によりチーム員の経験（事例）の積み上げを重ねることができた。更にケース対応を通じ、地域包括支援センターや医療機関・ケアマネジャーと連携を図り、支援を強化していく
	〈認知症本人支援・家族支援の場〉 ①「家族介護教室」の開催 ②「お楽しみ処（認知症カフェ）」の開催 ③認知症パートナーによる訪問支援	①移動・移乗介助教室（10/22）参加者：6人 フットケア教室　（11/25）参加者：7人 家族介護交流会　（12/20）参加者：6人 ②西白井お楽しみ処：20回 参加人数：延219人 池の上お楽しみ処：20回 参加人数：延232人 ③認知症パートナーによる訪問支援（チームオレンジ）：9ケース ※認知症状があり、閉じこもりがちの方を対象に「お元気みまもり事業」を紹介。地域の見守りパートナーとして認知症パートナーが月2回の定期訪問で交流。	家族介護教室は、移動・移乗介助の内容に関心、ニーズが高かった。交流会は認知症の方をもつ家族が多く、情報共有の場となっていた。 認知症パートナー（認知症サポーター養成講座のステップアップ講座修了者）による、お楽しみ処の運営や訪問活動が当事者や家族にニーズにマッチしており、認知症パートナーの活躍の機会が増えている。 今後も引き続き、担い手の育成と活躍先へのつなぎ支援を強化していく必要がある。
目指す姿	**事業名**	**実施内容**	**評価と課題**
②医療・介護職の顔の見える関係構築ができ、資質向上が図れる	多職種連携研修会	**【認知症支援研修会】** 8/28 講師：日本医科大学千葉北総病院 老人看護専門看護師　齋藤多恵子氏 参加者：市内居宅介護支援事業所、訪問看護、介護施設従事者22名 **【終末期・看取りケア研修会】** 11/13 講師：白井聖仁会病院　緩和ケア認定看護師　殿内久美子氏 参加者：市内訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、訪問介護、介護施設従事職員34名 **【急変時対応講習会】** 1/23 講師：千葉白井病院　理事長　筒井雅人医師 協力：白井消防署、西白井消防署、印西西消防署 参加者：市内介護施設従事職員26名	グループワークを取り入れ、参加者のスキルアップや参加者同士の交流が図れたと評価している 。急変時対応講習会においては、救急救命士との共通認識が図れ課題の共有につながった。

目指す姿	事業名	実施内容	評価と課題
③医療・介護・行政等関係者の連携ルールが作られ、情報共有ツールが普及し、関係者間で共有される。	救急医療情報キット、介護施設用シートの配布、運用	【救急医療情報キットの配布】 累計：6031本（平成29年12月～令和7年3月末） 令和6年度：541本 【救急要請時における救急医療情報キットの活用】 救急医療情報キット：459件 （令和5年度：369件） 介護施設用シート：134件 （令和5年度：127件） 65歳以上の救急出動（自宅・介護施設のみ）件数（1589件）に占める情報連携シート（救急医療情報シート・介護施設用シート）の活用率37.3% （令和5年度：32.6%） 【キットの普及啓発】 ・キットの周知啓発として、令和3年2月より救急搬送現場にて白井市・印西市共通のリーフレット配布を開始	救急現場、各地域包括支援センターでのリーフレット配布により、申請者数は増加している。 今後も普及に向けた継続的な取り組みが必要となる。
	医療と介護の情報連携（ICT検討）ワーキング	**【多職種連携情報システム（バイタルリンク）】** バイタルリンク活用及び在宅医療後方支援制度の説明（7/16） 鎌ヶ谷市の在宅診療クリニックより依頼があり、説明会を実施した。	多職種連携情報共有システムの基本的な運用ルールを定め、運用することができている。 今後は運用上の課題を把握し、スムーズな運用とシステム普及について検討する必要がある。
	徘徊保護高齢者に関する警察との連携体制の構築	警察に保護された徘徊高齢者に関する情報について、家族の同意が得られた場合、市に情報提供があり、支援につなげている。 【実績】 31件 （令和5年度26件） 【対応】 ①介護認定あり 18件 →ケアマネジャー及び地域包括と情報共有し、支援実施。 ②介護認定なし 13件 →地域包括により実態調査等を実施。	警察からの情報提供から、直接の支援やケアマネジャーへの支援につながっている。 今後も、情報提供を受けながら警察、ケアマネジャー、地域包括と連携し、支援を行う。

目指す姿	事業名	実施内容	評価と課題
④認知症、在宅医療、在宅看取り等についての普及啓発を行い、市民の理解が進む。	「終活支援ノート」の配布、「終活支援講座」の開催	**【終活支援ノート】** 令和元年9月より配布 地域包括支援センター窓口での配布を継続 **【なるほど行政講座（終活支援講座）】** ・白井市福祉センター主催、手ことばの会ひまわり主催、堀込第四住宅管理組合主催、西白井複合センター主催、桜台ひまわりの会主催　各1回開催　計5回	終活支援講座をなるほど行政講座メニューとして登録、要望に応じて随時実施していく。
	「認知症周知啓発月間」 「認知症サポーター養成講座」	**【認知症周知啓発月間】** ・認知症周知啓発月間中、庁舎外壁に懸垂幕の設置 ・9/1号広報 ・保健福祉センター1階ホールに情報コーナー設置 **【認知症サポーター養成講座】** ・認知症サポーター講座開催：年13回、773人 （小学校：449人、高校生：267人） ・認知症パートナー養成講座（ステップアップ講座） 開催：1回、5人 **【認知症みまもり訓練】** ・9月　南山小学校区にて実施 参加人数：24人（男性4名、女性20名）	認知症周知啓発月間を設け、展示や講座を行うことで周知啓発に繋がっている。 今後は、地域の企業等に向けたサポーター養成講座を開催していく。令和6年度新規事業として、認知症みまもり訓練を実施。認知症の方に対し、声かけ・見守り・保護していく仕組みづくりを進め、自分らしく暮らし続けられる地域づくりの構築を目指していく。

目指す姿	事業名	実施内容	評価と課題
⑤在宅医療・介護連携、認知症に関する相談窓口整備され、市民や医療・介護関係者への相談支援体制が整う。	医療・介護関係者からの在宅医療の相談窓口を地域包括支援センター（市内3か所）に設置	【実績】 医療に関する相談(実件数)：212件 内訳） ・医療機関や治療、保健・健康相談 105件 ・精神疾患　78件 ・在宅医療、訪問看護　29件	コロナ禍において、在宅医療のニーズは高まっている。市内外の訪問診療・訪問看護の情報収集を継続し、相談時に活用していく必要がある。
	「認知症ガイドブック」に認知症に関する相談先の情報を掲載	高齢者福祉課、各地域包括支援センター窓口で随時配布	元気なうちから情報が得られるよう、引き続き周知を行う。
	「地域包括支援センター」の周知啓発	各地域包括支援センター職員が、各自、民生委員の定例会に等に出席し、周知に努めた。	今後も地域に出向き、継続して周知啓発に努める。